

JAXA の 対 外 発 信 活 動 に つ い て

2024年 4月

JAXA広報活動の目的

- JAXAでは、国の予算により事業を実施していることを踏まえ、以下の2点を広報活動の主要な目的として掲げています。

(1) 国民と社会への説明責任を果たす

- 国立研究開発法人として宇宙航空分野の事業を推進する意義と創出した成果及び今後創出する成果の価値と重要性について説明責任を果たします。

(2) 国民と社会からの支持を確立する

- JAXAが行う事業の意義と価値についての社会の認知と理解を広げ、ポジティブな世論を形成し、JAXAの事業の基盤である世論の支持を一層強固なものとしします。

JAXA広報活動の重点課題

- JAXAをとりまく環境をふまえ、以下3点をJAXA広報活動の重点課題として認識しています。

重点課題 ① より一層の支持拡大

- 2022年10月からの度重なる失敗により、国民のみなさまの期待に応えられない事態が相次ぎ、即時性・透明性・双方向性を持って広報することにより信頼回復に努めてきた。
- 2023年度はXRISM/SLIMの成功やH3ロケット試験機2号機の成功もあり、回復傾向にあるところ。これを踏まえ、今後は、より一層の支持拡大を図る必要がある。

重点課題 ② より多くの人に届く広報

- 2020年からの社会の大きな変化に対応し、広報活動も変化している。オンラインと対面と双方のメリットを生かしつつ、より効果的な選択を行い、情報発信を行う必要がある。
- SNSの発信も影響力を持つようになってきており、広報の在り方も多様化している。
- これまでの「常識」とらわれることなく、新しい価値観を持って柔軟に挑戦していくことで、より多くの人に届く広報を行わなければならない。

重点課題 ③ より多様な層への訴求

- JAXAの認知度※1は確実に高まっており、JAXAを知ってもらう段階からJAXAの事業をより深く理解してもらう広報活動に方向性が変わりつつある。
- 国民の意識調査により比較的関心が薄いと言われる20～30代(特に女性)※2の関心を高めるとともに、ファン層へはより深い理解へと繋がる情報を提供し、多様な層への支持の拡大を図る必要がある。

(宇宙航空事業に関する国民の意識調査による(JAXA実施の全国15～69歳の3394人対象に実施のWEB調査(非公開)))

※1 JAXAの名称認知率は81.7%となっている。NASAの認知率が78.2%であるので、JAXAの認知度は「高い」と考えられる。

※2 20代女性では65.4%、30代女性では70.6%と全体(81.7%)より低くなっている。

JAXAの広報戦略

- 国民と社会への説明責任を果たすとともに、一層の理解増進を図るため、我が国の宇宙航空事業及びJAXAを取り巻く環境の変化を踏まえて即時性・透明性・双方向性の確保を意識しつつ、高度情報化社会に適した多様な情報発信を行います。

重点課題 ①
より一層の
支持拡大

重点課題 ②
より多くの人に
届く広報

重点課題 ③
より多様な層
への訴求

A) プレスリリース、記者会見、記者説明会等、メディアへの丁寧な説明や対話の機会を幅広く設け、JAXA事業の意義や成果に係る情報発信をタイムリーに行う。

B) 自ら保有する広報ツール(ウェブサイト、制作映像、シンポジウム、機関誌、各事業所における展示や施設公開、講演会への講師派遣等)を活用し、また、最新の情報発信ツールを取り入れながら、丁寧でわかりやすい情報発信を行う。

C) 外部機関との連携事業に積極的に取り組み、JAXA単独では接触し難い層に情報発信を拡大する。

JAXA広報活動の種類

区分	活動種別
報道とメディア対応	記者会見、メディア向け勉強会
	プレスリリース
	取材依頼(海外対応含む)
	メディア等の企画への協力
普及事業	Webサイト、SNS (X、Facebook、YouTube、Instagramなど)
	映像製作・配信(JAXA channel)
	機関誌／部門機関誌、ミッションポスター印刷等
	シンポジウム、展示会出展、ワークショップ、イベント(海外対応含む)
	(JAXA事業所等)展示館運営、施設一般公開
	職員講演
外部連携	お問い合わせ、ご意見の受付、回答窓口
	展示出展、イベント共催
	後援・協力
効果測定・実績分析	模型・パネル等展示品貸出
	メディア・モニタリング(経営層等へのフィードバック含む)
広報基盤の強化	世論調査(国民の意識調査)
	人的基盤(スキルアップ、広報研修、メディアトレーニング)
	物的基盤(映像・画像等ツール整備)



2023年度の取組

■ 対面再開。対面/オンライン/ハイブリッドの「ベストミックス」で、各種広報活動を実施

4月	<ul style="list-style-type: none"> JAXA 宇宙飛行士候補者の合同取材機会 若田飛行士帰還会見 木星氷衛星探査計画(JUICE)打上げ G7長野県軽井沢外相会合国際メディアセンターでの広報展示 不適合事案に係る再発防止策の実施状況等に関する記者会見 	10月	<ul style="list-style-type: none"> IAC 2023(アゼルバイジャン) 展示及び日本主催レセプションの実施 H3 ロケット試験機1号機打上げ失敗の原因究明報告書の公表
5月	<ul style="list-style-type: none"> 古川聡宇宙飛行士 訓練公開 G7広島サミット国際メディアセンターでの広報展示 古川聡宇宙飛行士長期滞在に関する記者会見 	11月	<ul style="list-style-type: none"> 大西卓哉宇宙飛行士のISS長期滞在に係る記者会見 JAXAシンポジウム@オンライン JAXA創立20年「挑戦への情熱」を開催 「EarthCARE」/「CPR」に関する記者説明会
6月	<ul style="list-style-type: none"> 小型月着陸実証機(SLIM)機体公開 油井宇宙飛行士のISS長期滞在搭乗員指名に係る記者会見 	12月	<ul style="list-style-type: none"> 革新的衛星技術実証3号機 X線突発天体監視速報衛星「こよう」の打上げ 観測ロケットS-520-33号機 打上げ
7月	<ul style="list-style-type: none"> JAXA宇宙飛行士候補者の囲み取材機会提供 イプシロンSロケットの開発状況に関する記者説明会 イプシロンSロケット第2段モータ地上燃焼試験(燃焼異常が発生) 	1月	<ul style="list-style-type: none"> X線分光撮像衛星(XRISM)のファーストライトと運用状況について 小型月着陸実証機(SLIM)の月面着陸 種子島宇宙センターにおけるH3 ロケット試験機2号機用フェアリング、超小型衛星及び第3フェアリング組立棟(SFA3)の公開 宇宙飛行士候補者の訓練公開
8月	<ul style="list-style-type: none"> 国際宇宙ステーション長期滞在クルー古川聡宇宙飛行士搭乗のクルードラゴン宇宙船(Crew-7)打上げ X線分光撮像衛星(XRISM)および小型月着陸実証機(SLIM)打上げ中止 	2月	<ul style="list-style-type: none"> H3ロケット試験機2号機の打上げ 古川宇宙飛行士の軌道上記者会見
9月	<ul style="list-style-type: none"> X線分光撮像衛星(XRISM)、小型月着陸実証機(SLIM)を種子島宇宙センターより打上げ 	3月	<ul style="list-style-type: none"> 先進レーダ衛星「だいち4号」(ALOS-4)機体公開(三菱電機主催) 古川宇宙飛行士地球帰還

- 報道機関やメディアを通じた情報発信は世論の形成に非常に大きな影響力を持つ。「記者会見」や「記者説明会」を開催し、JAXA事業への理解を深め、今後の報道の際に正しくかつ深い情報を伝えてもらうべく情報発信を行っている。

- XRISM/SLIM打上げ、H3ロケット試験機2号機打上げについては、種子島にプレスセンターを開設。記者会見は対面とリモートのハイブリッドで対応。

- ドラゴン宇宙船打上げと帰還(米)の際は、NASAのプレスセンターで報道・メディア対応を実施。また、ライブ中継を配信。

赤:ハイブリッド

紫:対面

黒:オンライン

報道・メディア対応

■ 「即時性・透明性・双方向性」の確保を意識

- 報道機関やメディアを通じた情報発信は世論の形成に非常に大きな影響力を持つ。「記者会見」「記者説明会」「メディア向け勉強会」を開催し、JAXA事業への理解を深め、今後の報道の際に正しくかつ深い情報を伝えてもらうべく情報提供を行っている。
- 組織として特に重要な内容のものがメディアに記事掲載されるよう、プレス向けに「プレスリリース」を発信している。



■ 日本初の挑戦で、広報も新たな挑戦

SLIM月着陸ライブ・記者会見

- SLIM月着陸ライブ・記者会見のJAXA公式YouTubeチャンネルの配信を実施。(合計300万回以上再生)
- 探査機の軌道や姿勢等をリアルタイムで世界に発信することとしCGや実況を交えてライブ配信。
- 人気Vtuber宇推くりあさんをインタビュアーに迎え、小型月着陸実証機 SLIM トークライブを実施。



H3ロケット試験機2号機打上げに関する広報活動

- 打上げ日の公表時の記者説明会、フェアリング・パイロード・新施設第3衛星フェアリング組立棟(SFA3)のプレス公開、機体移動プレスツアー等のメディアイベントを実施。
- ロケットの解説を盛り込んだ番組形式にて、H3ロケット試験機2号機打上げをライブ中継。(合計129万回再生)
- H3応援キャンペーンを一般/企業・団体を対象に実施。集められたメッセージ2,931件を、「RTF:Return To Flight(飛行再開フライト)」の文字に白抜きで貼り付けた。
- 筑波宇宙センターや科学館等でのパブリックビューイング(13件)、ケーブルテレビ及びメディアやYouTuberによるオンラインでの同時配信(7件)を実施。(合計83万回以上再生)



宇宙飛行士とのリアルタイム交信

- 日本人宇宙飛行士の活躍は、広く国民、特に子供達に夢と希望を与え、次世代を担う人材を育成することにつながり、イノベーションや新たな成長の礎となる。
- これを踏まえ、JAXAでは、国際宇宙ステーション(ISS)に滞在中の日本人宇宙飛行士と国民とのリアルタイム交信を実施している。YouTubeでも配信・アーカイブ。
- 2023年12月11日の交信には、盛山大臣、高市内閣府特命担当大臣(宇宙政策)、若田宇宙飛行士及びJAXAの小型月着陸実証機 SLIMプロジェクトに関連性のある大学院生7名が出席。ポストISSを見据えた日本の役割や将来の月面活動等について質疑が行われた。



JAXA自身のメディアからの発信

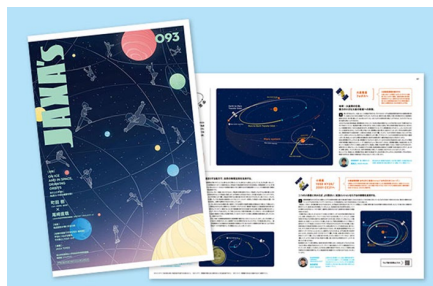
WEBサイト・SNS

- 打上げ、ISS長期滞在ミッション、宇宙飛行士候補者募集に係る特設サイトをはじめ、事業の進捗や将来計画に係る情報を発信。
- 若手層への理解増進を目的として、SNSでショートムービー(約45秒)による事業紹介を毎週配信。



機関紙『JAXA's』による情報発信

- 機関紙『JAXA's』を年4回発行。紙のタブロイド版、WEB版を展開。JAXA職員と各分野の著名人との対談記事など、異分野と交流することで幅広い層へ届くことを期待。昨年度は、長岡亮介氏(音楽家・ギタリスト)、町田 樹氏(スポーツ科学者・振付家、元フィギュアスケーター)、石山蓮華氏(電線愛好家・文筆家・俳優)、濱口竜介氏(映画監督)と、JAXA職員との対談を行った。



展示館とシンポジウム

展示館運営等(全国14のJAXA展示施設)

- 各事業所に展示館を併設。年間合計約60万人のお客様が来場。
- 施設一般公開を年1回程度行っており、広報のみならず、各事業所や各部門を挙げて、普段は入れない場所を公開し、研究開発の現場の魅力を発信している。

※老朽化対策工事に伴い、2024年6月5日(水)～2025年春頃まで筑波宇宙センターの展示館「スペースドーム」は閉鎖予定。
見学ツアー・プラネットキューブ(ミュージアムショップ)・ロケット広場は引き続き利用可。)



筑波



種子島



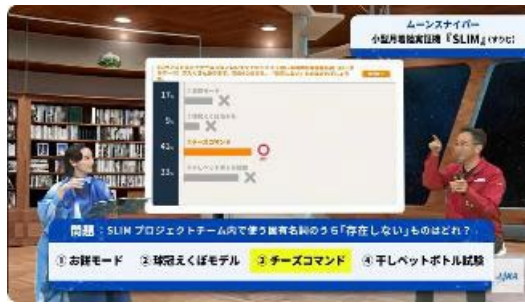
相模原(特別公開)



キッズスペースでの紙芝居

JAXAシンポジウム

- 宇宙航空研究開発のより一層の発展を目指し、毎年「JAXAシンポジウム」を開催。2023年度は、JAXA事業の活動報告や、イプシロン6号機及びH3試験機1号機の失敗の原因究明の進捗状況や9月に打ち上げたXRISM、SLIMのミッション概要について各プロマネ等から説明。
- ISS長期滞在のミッション報告や新たに選抜された宇宙飛行士候補者2名も米国からオンライン参加し、飛行士選抜と基礎訓練に関するトークセッションを行った。



外部での展示活動

展示

- 軽井沢外相会合(4月15日～17日)、広島サミット(5月18日～22日)、国際メディアセンターにて展示を実施。国内外の報道陣、G7各国からのゲスト、地元の方々に対して事業紹介を行った。「はやぶさ2」が持ち帰ったリュウグウサンプルの実物、LUPEXローバのコンセプトモデル、H3模型などの展示を行った。
- 国際宇宙会議(IAC)(10月2日～6日。アゼルバイジャン)にてJAXAブースを出展。のべ4,000名が来場。SLIM, MMX, H3ロケットの模型を展示し、将来探査に向けた全体像を示すとともに宇宙飛行士や探査ミッションに関するトークセッション、ネットワーキングイベント、SLIM搭載のLEV-2(SORA-Q)のデモンストレーションなどを開催した。
主催者より「Best Visitor Engagement賞」を授与された。(約 100 の出展組織のうち、受賞したのは 8 組織のみ)

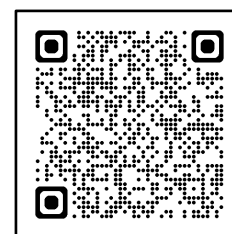


「宇宙の日」記念事業 全国小・中学生 作文絵画コンテスト

- 宇宙の普及活動を末永く行うため、一般公募により、毛利衛宇宙飛行士がスペースシャトルで初めて宇宙に飛び立った9月12日が「宇宙の日」に選定された。これを記念して1993年から「宇宙の日」作文・絵画コンテスト」を毎年度開催。
- 内閣府と文部科学省が後援。小中学生の「グランプリ」には、絵画は宇宙政策担当大臣、作文は文部科学大臣より表彰状授与。
- 令和5年度のテーマは「月、火星、その先へ … 自分の惑星探査計画」。



歴代作品のギャラリーページ



https://fanfun.jaxa.jp/topics/contest_gallery/list.html?t=32303233e5b9b4e381aee4bd9ce59381

■ 絵画の部 令和5年度グランプリ (宇宙政策担当大臣表彰)

小学生部門



中学生部門



■ 作文の部 令和5年度グランプリ (文部科学大臣表彰)

小学生部門

「惑星火風雲」

中学生部門

「太陽系外への
国境を超える冒険を」

外部連携

サンフレッチェ広島ミュージアム向け映像制作協力。
津田元プロマネがサンフレッチェ夢チャレンジ大使であることから今年2月オープン of サンフレッチェ広島ホームスタジアムに併設されているミュージアムエリアでの展示協力を実施。特定チームの応援とならないよう配慮。



広島市子ども文化科学館 プラネタリウム番組
「びよん太が宇宙探査について聞いてみた件」
制作協力。広島県出身の津田元プロマネ対応。
上映期間：2024/3/9日～9/1
関連イベント（講演他）：8/2 開催予定



両者にて連携も実施

プラネタリウム番組
「ゲゲの鬼太郎 河童の
テラフォーミング」
制作協力。

水木しげる生誕100周年
とプラネタリウム100周年の
連動記念企画として制作。
現在全国の科学館等で上
映中。JAXA職員が河童を
訓練し、火星に送り込むス
トーリー。



公式サイトより引用

「有吉のお金発見 突撃!カネオくん」書籍化協力。5年前に
放送されたJAXA回を紙面化協力。
4色/A5判/144ページのうち4ページ分が該当。



今後に向けて

- これまでの広報活動に加え、以下のように取組を深化させてまいります。
 - コロナ禍やSNSの影響力増加など、広報の在り方もより多様化している。今後はこれまでの「常識」にとらわれることなく、新しい価値観を持って新しい可能性に柔軟に挑戦し、より多くの人に届く広報を行うため、最新の情報発信ツール(SNS等)をこれまで以上に積極的に取り入れ、幅広い層へ丁寧でわかりやすい情報発信を行う。
 - SLIMやH3では広報面でも様々な挑戦を実施※し、大きな反響があった。今後も、JAXA のロケット打上げ・衛星ミッション等の機会を活用し、特設サイトの設置、ライブ中継の実施、メディアへの記者説明会や取材機会の提供、画像・動画の活用等を強化し、事業への更なる理解増進を図る。
※ スライド7ページ(ライブ中継)参照
 - 研究開発の実施においても、オープンイノベーションの仕組みを拡大・発展させ、JAXA・産業界(異業種含む)・学术界との連携を更に推進していく。
 - 2025年の大阪・関西万博に向け、関係府省とも調整しつつ、効果的な企画の検討を行う。出展により、日本の宇宙航空開発・利用について多くの国民の理解を増進するとともに、世界における日本(JAXA)のプレゼンスを向上させる。